

国内外の人脈を活かした アパレルの海外生産



代表取締役 **鈴木 洋平**

鞆をメインとしたアパレル製品の海外生産を支援している『プレアゼ』。鈴木社長は中国・ベトナム・カンボジアなど海外工場とのコネクションを持ち、海外生産によるコスト削減を実現しているという。タレントの野村将希氏が、社長にインタビューを行った。

——鈴木社長はこのアパレル業界が長いのですか。

そうですね。大学卒業後は先物取引の会社に就職したのですが、すぐに転職し、それが子ども服の卸会社でした。そこからずっとアパレル業界一筋です。国内縫製工場や繊維商社での営業を経て、鞆メーカーに入社したのが2009年、20代後半のころ。入って一月足らずで中国・広州の支社に出向し、現地工場での品質管理やコスト・納期の交渉をしていました。——やり取りするのは中国人の方なわけですよね。中国語は話せたのですか。

いえ、最初は通訳さんを介しながらでした。当時、中国で作られる製品は不良品が多かったのが、私自身も工場を見て

回り、時には揉めたりもしながら（笑）、仕事を終われば皆で食事をしてと、充実した日々でした。そのうち中国語もマスターでき、次は現地の日系検品会社に転職して4年ほど所長を経験。中国でも大手の検品会社だったので、日本のアパレル業界のお客様も含め、幅広い人脈を培うことができました。中国には計6年滞在し、それから日本に帰国して、2019年に当社を設立した次第です。

——鞆などの海外生産を支援されているとのこと、御社の強みは何ですか。

やはり中国の工場や市場などの状況を理解していること、あとは検品会社にいた時の仲間がベトナムやカンボジアなどで鞆工場を立ち上げているので、そちらをアテンドできるのも強みだと思います。また私自身、品質管理や検品の経験があるので、海外生産でコストを抑えられるのはもちろん、絶対に間違いのない製品が作れるという自信もありますね。

——それは心強い！ しかし昨今のコロナ禍は痛手だったのでは？

はい。アパレル関係がメインのお客様ですが、今この業界は大打撃を受けています。そこで今年からは、アパレル以外の挑戦も考えているところですね。異業種の方々とお話をすると、新たな需要

が見えてきたり、当社がお力になれる部分が見付ったりすることがあります。また、BtoBだけでなくBtoCの事業展開も考えています。そのようにして、新たな販路を開拓していきたいです。

——大変な時代ですが、販路を広げてピンチをチャンスに変えていこう、と。

ええ。また、今回のコロナ禍は「自分が一番したいことは何か」を改めて考える機会にもなりました。私はこれまでの人生で、日本のお客様はもちろん、中国やベトナム、カンボジアなど、海外工場の方々にも大変お世話になってきました。その全ての方に恩返しをすることが、一番の目標です。私が人と人、国と国を結ぶ架け橋となり、皆様が幸せになれるような仕事を目指していきたいですね。

(2020年12月取材)



「中国での勤務時代は、朝から晩まで働き詰めの過酷な環境だったそうです。それでも現地の方々と共に仕事に励み、培ったノウハウと人脈が今では大きな武器となっています。鈴木社長なら今の大変な状況も乗り越え、さらに飛躍を続けていくことでしょう」

interviewer：野村 将希

株式会社 プレアゼ

東京都中央区日本橋富沢町 5-3

I.B 日本橋ビル 503

URL：https://please-ltd.com

